

主要果実の生産・販売経過

平成18年5月18日
日本園芸農業協同組合連合会

1. 柑橘類

(1) 温州みかん

平成17年産みかんの生産量は1,132千トン（前年比107%）となり、出荷は4月でほぼ終了したが、京浜市場の卸売価格は163円（前年比78%）であり、全県で経営安定対策の価格補てんの対象となる見込みである。

一方、本年産ハウスみかんの出荷もスタートしているが、重油価格の高騰により被覆面積は前年の86%と激減している。また冬季が低温であったため生育は遅れているが、京浜市場に出荷が集中している傾向にあり、京浜市場5月上旬までの入荷量は106トン（前年比109%）、卸売価格は1,695円（前年比91%）となっている。

(2) 中晩かん類

中晩かん類については、当初より前年を10%程度下回る生産量が予想されていたが、年末の降雪・寒波等の被害により中晩かん全体の出荷量は85%程度となる見込であり、特にいよかんの減収が大きい。

デコポン以外は前年を下回る出荷量となっているが、中晩かん類全般に小玉で酸が高い等品質的な問題もあり、各品目とも前年を10~20%下回る価格で推移している。

2. 落葉果樹

(1) りんご

平成17年産りんごの生産量は819千トン（前年比109%）となり、台風の影響等により生産量の少なかった前年を上回った。年明け以降の販売については青森県産中心の販売となっているが、出荷量も前年を上回っており、また小玉の比率が高いことから前年を下回る価格で推移している。

5月上旬までの京浜市場の入荷量は73,813トン（前年比104%）、卸売価格は246円（前年比85%）となっている。

(2) キウイフルーツ

国産のキウイフルーツは生産量が前年を上回ったことと、ニュージーランド産キウイフルーツの販売が年明けまでズレ込んだ影響で、国産の出荷が遅れ3月以降に集中したため大幅な価格低下となった。

ニュージーランド産キウイフルーツの本年度の日本向け販売計画は1,500万トレイ（前年比102%）であり、既に4月27日より販売が開始されている。

(3) ハウスぶどう

本年産のハウスぶどう（テラウア）は、加温開始が遅れたことと、冬季が低温で推移したため生育が遅れ、5月上旬までの入荷量は前年を大幅に下回っており、京浜市場5月上旬までの販売は、入荷量が前年の66%、卸売価格が前年の110%となっている。

(参 考)

京浜市場の国産果実販売実績（5月上旬までの累計）

(単位：ト、円/kg、%)

	ハウス みかん	甘 夏	しらぬひ	りんご	ふ じ	いちご	キウイ フルーツ
	入荷量 (前年比)	106 109	6,011 68	9,110 101	73,813 104	44,212 102	33,675 97
単 価 (前年比)	1,695 91	169 90	408 86	246 85	247 86	1,130 101	262 58

1・2類都市市場の青果物販売実績（前年比）

(単位：%)

区 分		11 月	12 月	平成17年 合 計	平成18年 1 月	2 月	3 月	平成17年度 合 計
		野菜総量 + 果実総量	数 量 金 額 単 価	1 1 0 8 5 7 7	1 0 3 1 0 0 9 7	1 0 0 9 4 9 3	9 7 1 0 2 1 0 5	1 0 0 9 6 9 7
国産果実	数 量	1 1 7	1 1 1	1 0 3	9 7	1 0 1	1 0 4	1 0 4
	金 額	8 7	8 9	9 6	8 7	9 2	8 8	9 3
	単 価	7 4	8 0	9 3	9 0	9 1	8 4	8 9
輸入果実	数 量	1 0 0	9 5	9 6	9 2	8 9	8 8	9 5
	金 額	8 1	7 9	9 3	8 9	9 2	8 4	9 0
	単 価	8 1	8 3	9 6	9 6	1 0 4	9 6	9 5

主要輸入果実の通関統計（平成18年1月～3月累計・前年比）

(単位：%)

	オレンジ	グレープ フルーツ	レモン	ブドウ	バナナ	パイナップル	キウイフルーツ	生 鮮 果 実 計
数 量	9 4	8 0	9 6	9 3	1 0 0	1 0 1	1 7	9 6
単 価	1 0 9	1 0 4	1 0 9	9 7	9 5	9 5	6 9	9 9